

湿原学習のための学校支援ワーキンググループの設置について

2015年 7月10日
釧路湿原自然再生協議会
再生普及小委員会 決定

1. 背景・経緯

- 釧路湿原自然再生協議会は、第21回会合（2015年3月16日）で第3期釧路湿原自然再生普及行動計画を採択した。
- その際、学校教育を対象とした環境教育の推進を図ってきた「環境教育ワーキンググループ」は第14回（2015年2月5日）を以て終了し、新たに（仮称）「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」を設置して学校教育における湿原の活用を推進していくことが併せて了承された。
- 第25回再生普及小委員会（2015年7月10日）において、名称を「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」とすることとされた。

2. 設置目的

- 湿原学習における学校支援を効果的に進めるために、現場教員や学校教育の専門家、教育行政機関等と一層の連携を図ることが可能な体制を構築し、総合学習や教科学習等、学校教育を通じた湿原の活用に向けて、効果的な支援方策の検討、取組みの実践を行い、その成果を踏まえて、流域の学校における普及方策を検討する。

3. 構成

- 再生普及小委員会委員長
- 学校教育行政機関、学校教員、北海道教育大学等
- 委員長の判断により必要に応じて関係者に出席を招請
- 事務局は、環境省釧路自然環境事務所（再生普及小委員会事務局）が担当する。

4. 会合開催方針

- 年2回程度（主として学校の長期休暇中）、「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ会合」の開催を予定する。
- 必要に応じて構成員との意見交換、情報共有を図り、取組みの実践を行う。
- 会合開催状況は、再生普及小委員会に報告する。

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
湿原学習のための学校支援ワーキンググループ名簿(敬称略)

2015年8月6日現在

<専門家>

高橋 忠一 (再生普及小委員会委員長)

境 智洋 (北海道教育大学釧路校 准教授)

<学校教育行政機関等>

北海道教育庁 釧路教育局

釧路市教育委員会

釧路町教育委員会

標茶町教育委員会

弟子屈町教育委員会

鶴居村教育委員会

環境省 釧路自然環境事務所

<学校教員>

湿原学習のための学校支援ワーキンググループの目的に賛同し、参加の了承が得られた学校教員

湿原学習のための学校支援ワーキンググループの取組み課題

2015年 7月10日
釧路湿原自然再生協議会
再生普及小委員会 決定

(※については、2016年度以降の着手を予定)

1. 湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進

- 湿原を題材とした、学校現場で活用可能な学習素材をとりまとめて情報発信を行うとともに、効果的な支援方策を検討する。
- ※ 学習素材の活用方法の例示、モデル授業の開発と実践、授業実践に必要な資材の貸出等、検討を行った支援方策のうち、着手可能なものから取組みを行い、情報発信および支援の実践を通して活用促進を図る。

2. 自然再生の学校教育への活用促進

- 自然再生事業地を学習素材としたモデル授業の検討を行う。
- ※ 学校教育で活用可能なものについて、モデル授業の開発および実践を図る。実践内容、支援メニューをとりまとめて情報発信を行い、活用の促進を図る。

3. 学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及

- フィールドを活用した教員研修を教育委員会と連携して企画、実施するとともに、湿原に関する各種情報、現地見学会やモニタリング等の自然再生への参加機会等の情報を教員に届ける仕組みを検討する。
- ※ 着手可能なものから、随時、情報提供を行う。

4. その他

- 上記に関わらず、教育行政機関や学校現場からのニーズ、専門家からの意見を受け、効果的な支援方策を検討する。
- ※ 着手可能なものから支援の実践を行うとともに、情報を随時とりまとめ、学校に対して支援メニューの情報提供を行う。

取組みのプロセス(案)

	1. 学習素材の 収集、活用促進	2. 自然再生の 活用促進	3. 教員の 関心喚起等	4. その他 (湿原の活用促 進に向けた取組)
第1回 WG (2015 夏)	意見交換・議論			
	↓			
	取組みの絞り込み（優先順位付け）、取組みの実施			
	素材収集、各種調 整、学習素材の活 用例の検討	現地見学会	教員研修 情報提供等	情報収集 各種調整
第2回 WG (2015 冬)	実施状況・収集した情報等の共有、次年度の取組みに向けた議論			
	学習素材の活用 例の検討、活用促 進に向けた意見 交換	モデル授業（事業 地、内容）の検討	次年度の取組みに向けた議論	
	↓			
	とりまとめ、学校への情報提供、次年度の取組みに向けた各種調整			
2016 年度 (2 年目) ～ 2017 年度 (3 年目)	モデル的な取組みの実践・評価			
	学習素材の活用 例の検討および 例示、モデル授業 の実施、必要資材 の貸出等、活用促 進に向けた取組 みの実践	モデル授業の実 施、実施内容の評 価	関心喚起を図る 機会づくり（研修 の実施、湿原に関 係する情報流通 の促進）	情報収集、各種調 整、取組みの実践
2018 年度 (4 年目) ～ 2019 年度 (5 年目)	3 年間の取組みの評価、取組みの定着および普及に向けた仕組みの検討・実践 支援内容のとりまとめ、学校・教員への周知（取組みの認知度向上）			
	情報の効果的などりまとめと周知、 継続的に支援を行うことが可能な仕 組みの検討	教員の認知度向 上、参加者増加に 向けた取組み		継続性を持った 仕組みの検討